

勉誠出版

近世文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: daad4008c3
(期限: ~2020年12月31日)

謹啓

秋冷の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。

当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。

この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- 弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: daad4008c3 (期限: ~2020年12月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください!

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- 2000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス**(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

*ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
近世文学会の会員であることをお知らせください。

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。



勉誠出版 注文書

Email info@bensei.jp FAX 03-5215-9025

ご送付先(氏名・住所・電話番号)

通信欄 ※お支払い方法(公費・私費)、必要書類はこちらにご記入ください

※割引クーポンコード: daad4008c3(期限: ~2020年12月31日)
 こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください!
 ※注文書に記載のない書籍につきましても弊社書籍は全点2割引にて承ります。
 ※近刊の本体価格はすべて予価です。

書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	割引価格	冊数
◆近刊(ご予約受付中!)						
中世和歌論—歌学と表現と歌人	中川博夫 著	2020/11	29199	12,000	10,600	
* 中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/11	20077	15,000	13,200	
古文書への招待	日本古文書学会 編	2020/11	22277	3,000	2,600	
日本の図書館建築(仮)	五十嵐太郎・李明喜 編	2020/11	20074	3,500	3,100	
メソアメリカ研究ハンドブック(仮)	伊藤信幸 監修/村上達也・嘉幡茂 編	2020/11	22296	4,800	4,200	
ラジオ技術産業の百年史 大衆メディアの誕生と変遷(仮)	岡部匡伸 著	2020/11	22295	6,000	5,300	
絶滅危惧種を食らう	秋道智彌・岩崎望 編	2020/11	未定	3,200	2,800	
アートシーンを支える デジタルアーカイブ・ベーシックス4	高野明彦 監修/嘉村哲郎 責任編集	2020/11	20284	2,500	2,200	
アーネスト・サトウと蔵書の行方 『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山勝 著	2020/11	20078	4,200	3,700	
渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2020/11	22289	14,000	12,300	
中国古典文学に描かれた劇・井戸・簪—民俗学的視点に基づく考察	山崎 藍 著	2020/12	29200	9,000	7,900	
明治の一発屋差人たち—珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏 著	2020/12	未定	3,500	3,100	
増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2020/12	未定	3,800	3,300	
中国の都市の記憶	和田博文・李 征・王志松・高潔 編	2020/12	未定	7,000	6,200	
中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修	2020/12	29612	6,000	5,300	
古文書研究 第90号	日本古文書学会 編	2020/12	22417	3,800	3,300	
韓国朝鮮説話学の形成と展開	金 広植 著	2021/1	未定	11,000	9,700	
真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城 司・小幡 伍 編著	2021/2	未定	9,000	7,900	
戦国合戦図屏風の歴史学	高橋 修 著	2021/2	未定	9,000	7,900	
◆事典・総記						
文化情報学事典	村上征勝 監修/金明哲・小木曾智信・中園聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 編	2019/12	20071	18,000	15,800	
◆歴史・文化財・美術史・思想史						
古代の日本と東アジア 人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	22279	10,000	8,800	
新羅中前期の史的考察	武田幸男 著	2020/7	22278	12,000	10,600	
古文書研究 第89号	日本古文書学会 編	2020/6	22416	3,800	3,300	
* 金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集	永井晋 編	2020/9	22288	10,000	8,800	
古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編 国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	22272	7,800	6,900	
* 日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	20073	7,000	6,200	
歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	22257	10,000	8,800	
* 近世大名墓の考古学 東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/6	22276	12,000	10,600	
* 儒教儀礼と近世日本社会 閩齋学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/7	21056	10,000	8,800	
* 生きるための地域史—東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志 編	2020/10	22290	8,000	7,000	
* 日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	22266	6,000	5,300	
* 近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	22265	10,000	8,800	
* 近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一/マシュー・デーヴィス 編	2020/2	22267	7,000	6,200	
* 江戸日本橋商人の記録—(くにんべん)伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	22269	11,000	9,700	
* スイス使節団が見た幕末の日本 プレンワルド日記1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・プレッワルド日記研究会 編	2020/6	22275	9,800	8,600	
* ロマノフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子 監修/牧野元紀 編	2020/8	22286	3,800	3,300	
甦る「豊後切支丹史料」—パチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	22261	12,000	10,600	
* 琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	29197	10,000	8,800	
新彰義隊戦史	大藏八郎 編	2020/9	22285	7,000	6,200	
* 日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	22268	17,000	15,000	
日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	27055	6,500	5,700	
宋代中国都市の形態と構造	伊原弘 著	2020/6	22069	4,500	4,000	
描かれたマカオ—ダーウセント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22262	22,000	19,400	
上海におけるプロテスタント 現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	村上志保 著	2020/5	21055	6,000	5,300	
現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 2 ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ	石田勇治・川喜田敦子 編	2020/9	22513	6,000	5,300	
現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 3 ドイツ市民社会の史的展開	石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史 編	2020/9	22514	6,000	5,300	
「本読み」の民俗誌 交差する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	23081	3,500	3,100	
メディアのなかの仏教 近現代の仏教的人間像	森覚 編	2020/5	21054	7,500	6,600	
渋沢敬三とアチック・ミュージアム—知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	22263	3,500	3,100	
荒れ野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	22264	3,200	2,800	
◆古典文学・文学史						
挑発する軍記	大津雄一 著	2020/10	22292	3,800	3,300	
* 江戸庶民のまじない集覧—創意工夫による生き方の智慧	長友千代治 著	2020/10	20076	6,000	5,300	
医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	20072	12,000	10,600	
水門—言葉と歴史 第二十九号	水門の会 編	2020/1	22443	3,500	3,100	
本朝文粹抄 六	後藤昭雄 著	2020/2	29224	3,200	2,800	
仙洞句題五十首・水無瀬殿恋十五首歌合 全注釈	石川一 編	2020/3	29195	10,000	8,800	
* 南方熊楠と日本文学	伊藤慎吾 著	2020/3	22270	7,000	6,200	
* 幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	29196	10,000	8,800	
* 明治の教養—変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉	鈴木健一 編	2020/1	29193	7,500	6,600	
杜甫研究年報 3 杜甫研究年報 第三号	日本杜甫学会 編	2020/5	29443	2,000	1,800	
* お伽草子超入門	伊藤慎吾 編	2020/7	29188	2,800	2,500	
白居易研究年報 最終号・第20号 特集 歌舞音曲 附 日本国内白居易研究文献解題目録	白居易研究会 編	2020/9	07098	9,000	7,900	
* 吉田松陰と学人たち	徳田武 著	2020/9	22291	10,000	8,800	
漱石文体見本帳	北川扶生子 著	2020/1	29189	2,800	2,500	
ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京	日本近代文学館 編	2020/4	29163	2,800	2,500	
同性愛文学の系譜—日本近現代文学におけるLGBT以前/以後	伊藤氏貴 著	2020/2	29191	2,800	2,500	

書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	割引価格	冊数
平川祐弘決定版著作集 ダンテ『神曲』講義	平川祐弘 著	2020/2	29422	10,000	8,800	
平川祐弘決定版著作集 西洋人の神道観—日本人のアイデンティティを求めて	平川祐弘 著	2020/3	29416	8,000	7,000	
平川祐弘決定版著作集 東の自生観と西の創造観	平川祐弘 著	2020/3	29428	14,000	12,300	
平川祐弘決定版著作集 開国の作法	平川祐弘 著	2020/4	29429	14,000	12,300	
平川祐弘決定版著作集 アーサー・ウェイリー『源氏物語』の翻訳者	平川祐弘 著	2020/7	29424	14,000	12,300	
アメリカ現代詩入門—エズラ・パウンドからボブ・ディランまで	原成吉 著	2020/2	29192	3,500	3,100	
100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック	寺尾隆吉 著	2020/3	29194	2,800	2,500	
◆日本語学・言語学						
日本書紀声点本の研究	鈴木豊 著	2020/3	28048	14,000	12,300	
龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引	佐々木勇 主編	2020/4	28050	18,000	15,800	
近世後期テニヲハ論の展開と活用研究	遠藤佳那子 著	2020/1	28047	8,000	7,000	
論究日本近代語 第1集	日本近代語研究会 編	2020/3	28521	15,000	13,200	
サハ語文法—統語的派生と言語類型論的特異性	江畑冬生 著	2020/4	28049	9,800	8,600	
国宝 漢書楊雄伝 第五十七	京都国立博物館 原本所蔵・編 石塚晴通・上杉智英・小助川貞次 解説	2019/12	28046	35,000	30,800	
続 岐点の軌跡 老いてなお岐点あり—老いてなお岐点あり	北原保雄 著	2020/4	28503	4,500	4,000	
◆図書館学・アーカイブ						
デジタルアーカイブ・ベーシックス3 自然史・理工系研究データの活用	井上透 監修／中村覚 責任編集	2020/4	20283	2,500	2,200	
ライブラリーぶっくす 司書のお仕事2 本との出会いを届けます	大橋崇行 著／小曾川真貴 監修	2020/10	20075	1,800	1,600	
◆統計学						
この本を書いたのは誰だ?—統計で探る“文章の指紋”	村上征勝 著	2020/4	29198	1,800	1,600	
R・Pythonによる 統計データ科学	杉山高一・藤越康祝 監修	2020/2	24011	2,700	2,400	
◆アジア遊学						
240 六朝文化と日本—謝靈運という視座から	蔣義喬 編著	2019/12	22706	2,800	2,500	
241 源実朝—虚実を越えて	渡部泰明 編	2019/12	22707	2,800	2,500	
242 中国学術の東アジア伝播と古代日本	榎本淳一・吉永匡史・河内春人 編	2020/1	22708	2,800	2,500	
243 中央アジアの歴史と現在—草原の叢書	松原正毅 編	2020/3	22709	2,400	2,100	
244 前近代東アジアにおける〈術数文化〉	水口幹記 編	2020/3	22710	3,200	2,800	
245 アジアの死と鎮魂・追善	原田正俊 編	2020/3	22711	2,800	2,500	
246 和漢のコードと自然表象—十六、七世紀の日本を中心に	島尾新・宇野瑞木・亀田和子 編	2020/4	22712	2,800	2,500	
247 移動するメディアとプロパガンダ—日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術	西村正男・星野幸代 編	2020/4	22713	2,800	2,500	
248 明治が歴史になったとき 史学史としての大久保利謙	佐藤雄基 編	2020/6	22714	2,800	2,500	
249 漢学とは何か 漢唐および清中後期の学術世界	川原秀城 編	2020/7	22715	2,800	2,500	
250 酔いの文化史 儀礼から病まで	伊藤信博 編	2020/8	22716	2,800	2,500	
251 仏教の東漸と西漸	荒見泰史 編	2020/9	22717	2,800	2,500	
252 中世日本の茶と文化 生産・流通・消費をとらえて	永井晋 編	2020/9	22718	2,800	2,500	
253 ポストコロナ時代の東アジア 新しい世界の国家・宗教・日常	玄武岩・藤野陽平 編	2020/9	22719	2,800	2,500	
◆書物学						
* 第18巻 蔵書はめぐる 海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	20718	1,800	1,600	

江戸庶民の まじない集覧

創意工夫による生き方の智恵

長友千代治 [著]

疫病、災害、男女関係、不妊、子育て、疾病、寿命……

生活のなかで直面するさまざまな悩みや障害に、江戸時代の人々は「まじない」により対処してきた。

それらは、生き方を積極的に探し求めて考え出された智恵であり、

また、いまを生きる我々にも

貴重な示唆を与えてくれる源泉でもある。

江戸時代に出版・書写された資料を博搜、

効能別に分類し、

二四〇点以上の図版とともに紹介する

「まじない」百科事典！

【著者プロフィール】

長友千代治(ながともちよじ)

昭和十一年宮崎市生まれ。三十五年佐賀大学卒業、四十五年大阪市立大学大学院博士課程修了。大阪府立図書館司書、愛知県立大学・京都府立大学・佛教大学教授を歴任。

著書に、『近世貸本屋の研究』(昭和五十七年)、『近世上方作家・書肆研究』(平成六年)、『近世上方浄瑠璃本の研究』(平成十一年)、『江戸時代の書物と読書』(平成十三年)以上東京堂出版)、『江戸時代の図書流通』(思文閣出版、平成十四年)、『江戸庶民の読書と学び』(勉誠出版、平成二十九年)など。編書に、『重宝記資料集成』全四十五巻別巻総索引(臨川書店、平成十六～二十一年)、『江戸時代生活文化事典』(平成三十年)など。



【目次】

①「まじない」と「のろい」と

②呪縛と祈り、そして養生

③呪い総覧

④食物の呪い

⑤地震・雷・火事・親父

⑥人間関係の呪い

⑦日常生活の呪い

⑧旅行の呪い

⑨犬・猫・鼠・土竜・鼯・鶏家鴨・鳥烏・鳶時鳥・馬・牛・狐・狸・邪鬼・霊気の呪い

⑩虫・毒虫・蚤・虱・蠅・蚊・蜂・虻・油虫・蜘蛛・百足・蛇・蝮の呪い

⑪療治の呪い

⑫内科の呪い

⑬外科の呪い

⑭婦人科の呪い

⑮小児科の呪い

主要依拠資料・索引

図版点数
240点超!



書名	部数
江戸庶民のまじない集覧 一 創意工夫による生き方の智恵 長友千代治 [著]	部
	本体 6,000円(+税) A5判上製カバー装・392頁 ISBN 978-4-585-20076-5・C1000 2020年10月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

11月刊行予定!

中近世移行期の文化と古活字版

高木浩明 [著]

人々を魅了した新たなメディア

十六世紀末、従来出版活動を行っていた寺院はもとより、天皇や将軍そして新興の豪商なども魅了した、日本書物史における新たなメディアが誕生した。

——古活字版である。

これらは、どのような環境において、いかなる人的ネットワークのもとで刊行され、どのように享受されたのか。古典の代表作として広く享受され、多数の現存伝本を持つ下村本『平家物語』、史上稀なる豪華活字版本として製作された「嵯峨本」、そして、古活字版製作をめぐる場と人びとに着目し、長年にわたる古活字版の悉皆調査を行ってきた知見をもとに日本出版史における古活字版の時代を炙り出す。

嵯峨本諸本、『平家物語』下村本諸本の現存伝本目録を収載。

「著者プロフィール」……

高木浩明 (たかぎ ひろあき)

清風高等学校・近畿大学文学部非常勤講師。専門は日本中世文学、書誌学。古活字版の悉皆調査により、第3回「岩瀬弥助記念書物文化賞」を受賞。著書、論文に「古活字版悉皆調査目録稿」(一)～(九)(鈴木俊幸編『書籍文化史』第十一～十九集、二〇〇～〇八年)、「大東急記念文庫蔵古活字版悉皆調査目録稿」(調査研究報告第四十号、国文学研究資料館、二〇二〇年)などがある。

図版点数
約200点!

「目次」

はじめに

第一部 下村本『平家物語』とその周辺

- 第一章 下村本『平家物語』と製作環境をめぐって
- 第二章 下村本『平家物語』書誌解題稿
- 第三章 『平家物語』十行平仮名古活字本は
下村本の底本たり得るか
- 第四章 下村本『平家物語』とその周辺
——國學院大學図書館蔵本から考えられること
- 第五章 『平家物語』古活字覚一本についての覚書
- 第六章 古活字版『源平盛衰記』の諸版について

第二部 「嵯峨本」の世界

- 第一章 「嵯峨本」再見——現存伝本調査報告
- 第二章 嵯峨本『伊勢物語』書誌考証
第二章付録 嵯峨本『伊勢物語』(慶長十三年初刊本)
部分異植字一覧
- 第三章 古活字版『伊勢物語』書誌解題稿
- 第四章 嵯峨本『方丈記』書誌考証
- 第五章 嵯峨本『撰集抄』書誌考証

第三部 古活字版をめぐる場と人々

- 第一章 『百人一首抄』(幽齋抄)成立前夜
——中院通勝の果たした役割
- 第二章 『徒然草寿命院抄』成立前夜
——中院通勝真筆本『つれく私抄』の紹介を兼ねて
- 第三章 古活字版『徒然草寿命院抄』書誌解題稿
- 第四章 角倉素庵と学問的環境
- 第五章 古活字版を必要とした人々
- 第六章 古活字版『大和物語』の刊行年時を考える
- 第七章 古活字版『後漢書』の刊行年時を考える
- 第八章 本文は刊行者によって作られる
——要法寺版『沙石集』を糸口にして
- 第九章 要法寺という場について考える
- 第十章 二兵衛とその出版活動をめぐる覚書

おわりに／初出一覧／図版一覧／索引

本体15,000円(+税)

A5 判上製カバー装・880頁
ISBN 978-4-585-20077-2・C3000
2020年11月刊行

書名	部数
中近世移行期の文化と古活字版	部
高木浩明 [著]	部
本体15,000円(+税) A5 判上製カバー装・880頁 ISBN 978-4-585-20077-2・C3000 2020年11月刊行	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

日本近世社会と町役人

望月良親 [著]

本体六,〇〇〇円(+税)

A5判上製カバー装・二五六頁

二〇二〇年二月刊行

ISBN978-4-585-22266-8 C3021

日本近世社会において、都市の支配者である武士と民衆との結節点を担った町役人。

彼らは如何にして自身の家を存続させていったのか――

商人などの新興勢力とのせめぎあいの中で、

彼らはその職掌を守るべく、

様々な手立てを講じていた。

甲斐国の甲府町年寄を代々務めたとされる坂田家。

十七世紀半ばから幕末期にかけての社会変容の中で、

彼らはどのようにして中世以来続く

世襲町役人としての位置を確固たるものとし、

近世社会を生きていったのだろうか。

伝来の文書等諸史料の博搜により明らかにし、

新たな近世社会の様相を描き出す。

〔著者プロフィール〕

望月良親 (もちづき・よしちか)

高知大学人文社会科学系教育学部門講師。専門は日本近世史。

論文に「近世の町役人と記録——甲府町年寄坂田信齋の明治維

新」(『海南史学』57、二〇一九年)、「近世長良川鶴飼観覧研究

序説」(『岐阜市歴史博物館研究紀要』24-1、二〇一九年)、「幕

末の美濃国と幕府領——文久元年の箱訴と私領化の風聞」(『岐

阜市歴史博物館研究紀要』23、二〇一七年)などがある。

〔目次〕

はしがき

序章 近世都市史研究の課題と本書の構成

近世都市史研究の現在／町役人の研究をめぐって／分析対象の概観／本書の構成

第一章 町役人の系譜——坂田忠家と甲府町年寄

一七世紀後半の甲府と甲府町年寄／甲府町年寄の盛衰／坂田家の「筋目」と甲府町年寄

第二章 享保期における町役人の変容

——享保九年の甲斐国幕領化を事例に
享保九年柳沢吉里の転封と町方／「久敷事をも覚罷在候者」

第三章 町役人と將軍年始参上

將軍年始参上の許可／江戸参上の由緒形成／「先格」の実像／安永六年の將軍年始参上／寛政六年の変化

第四章 幕領の町役人と江戸——江戸へ去る幕府役人

安永六年の甲府町年寄坂田忠家と將軍年始参上／甲府町年寄と江戸

第五章 甲州騒動と「御救」

思い起こされる天明七年の「御救」／甲州騒動後における甲府の「御救」／幕末の「御救」

第六章 移動する將軍と町役人の將軍年始参上

町役人はどこに行く／將軍が居る畿内／江戸に集う町役人

終章 近世都市と町役人の家

甲府町年寄と坂田家／町役人の家／町役人の近代／都市史を拓くために

あとがき／初出一覧／索引

書名	部数
日本近世社会と町役人	本体6,000円(+税)
望月良親 [著]	A5判上製カバー装・256頁
	2020年2月刊行
	ISBN978-4-585-22266-8 C3021
ご送付先ご住所 (通信欄)	

きんせいごうしょう・ごうのうの(へいへ)けいせいとしよもつじゆよう

近世豪商・豪農の 〈家〉経営と書物受容

鈴木淳世〔著〕

北奥地域の事例研究

「知」はどのように彼らの行動を規定したか――

十九世紀前半、相次ぐ飢饉や財政窮乏などの社会状況の変化に対し、

中間層である豪商・豪農たちはどのように対応していったのか。

北奥・八戸藩において対照的な行動をなした豪商と豪農の二人の人物を取り上げ、

その行動の背景にある思想の形成過程を蔵書体系や書物受容から探り、

村・町などの共同体との共生において、

「知」がどのように関わっていたのかを鮮やかに描き出す。

【目次】

まえがき

序 章…本書の課題

第一章…淵沢定啓の蔵書形成

第二章…淵沢定啓の書物受容

第三章…淵沢定啓の経営思想

第四章…淵沢定啓の鉄山支配

第五章…石橋憲勝の経営思想

第六章…八戸藩領の書物流通

終 章…本書の成果と今後の課題

あとがき・初出一覧・索引



【著者プロフィール】

鈴木淳世(すずき・よしとよ)

一橋大学院社会学研究科特任講師。専門は日本近世史。

主要論文に、「十九世紀前半における『鉄山支配人』の性格——八戸藩領「中間層」の場合」(『一橋社会科学』五二〇—二〇一三年)、「近世後期八戸藩の豪農による書物受容の特質——淵沢 円右衛門定啓の場合」(『歴史』一二二、二〇—二〇一四年)、「近世中期城下町商人の経営思想——八戸城下・石橋徳右衛門憲勝の場合」(『人民の歴史学』二〇二二、二〇—二〇一四年)などがある。

本体 一〇、〇〇〇円(+税)

A5判上製カバー装・四八〇頁

二〇二〇年二月刊行

ISBN978-4-585-22265-1 C3021

書 名	部 数
近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容——北奥地域の事例研究 鈴木淳世〔著〕	本体 10,000 円(+税) A5判上製カバー装・480頁 2020年2月刊行 ISBN978-4-585-22265-1 C3021
ご送付先ご住所(通信欄)	

近世大名墓の考古学

東アジア文化圏における思想と祭祀

松原典明 [編]

為政者の思考・観念を「墓」に探る
列島各地に残された近世大名家の墓所は、幕藩体制の社会構造、地域の政治・経済・文化・信仰についての歴史的背景を解明するための極めて重要な歴史資料である。

そして、その墓所造営や葬送儀礼、祖先祭祀には、東アジア文化圏に共通項として存在した

儒教受容や礼学の実態が顕現している。

近年、調査・研究の進む大名家墓所を、

考古学そして文献学の知見より多角的に検討し、

近世武家社会における為政者の思想と

その実践の諸相を明らかにする。

図版掲載点数約400点!

編者プロフィール

松原典明 (まっばらのりあき)

一九六〇年生まれ。石造文化財調査研究所代表。専門は近世考古学、墓制史。著書に『近世宗教考古学の研究』(雄山閣、二〇〇九年)、『近世大名葬制の考古学的研究』(雄山閣、二〇一一年)、『近世大名墓の世界』(共著、雄山閣、二〇一三年)、論文に『近世武家社会における葬制について』(藤堂高久の葬送と喪禮)、『日本仏教総合研究』10号、二〇一一年)、『近世大名家墓所からみたアイデンティティの形成』(大江姓永井家墓所形成を例として)、『日本考古学』41(二〇一六年)、『近世大名墓から読み解く祖先祭祀』、『宗教と儀礼の東アジア』(交錯する儒教・仏教・道教)『アジア遊学』二〇六号、二〇一七年)などがある。

本体 12,000円(+税)

B5判・上製カバー装・336頁
ISBN978-4-585-22276-7 C3021
2020年6月刊行

目次

はじめに◎松原典明
総論 近世大名家墓所調査の意義◎坂詰秀一

I 近世大名葬制の思维と実践

会津藩の思想と儒教・神道の実践◎近藤真佐夫
彦根藩井伊家の墓所造営と変遷——清涼寺墓所の再検討◎下高大輔
岡山藩の儒教受容とその本末——儒教の墓を中心にして◎北脇義友
日出藩木下家の宗教思想と祭祀
——神道・儒教受容の足跡と先祖祭祀の諸相◎中尾征司
岡藩中川家の思想と実践——儒教受容とその展開◎豊田徹士
近世後期の豊後日田における葬制の実践について
——廣瀬淡窓・咸宜園とその周辺◎吉田博嗣
薩摩藩島津家の墓所造営と宗教◎藤井大祐
近世大名墓墓誌の存否について◎石田 肇

II 東アジア文化圏の思想受容と祭祀

黄檗文化の受容とその実践——歴住と帰依大名の墓から◎松原典明
黄檗宗の展開と近世大名の帰依◎田中智誠
近世大名家における積奠祭と礼楽の受容と変容
——尾張藩徳川義直と姫路藩雅楽頭酒井忠道を事例として◎楊 桂香
コラム◎大名庭園に写された西湖堤◎田中昭三
長崎唐通事の墓制とその起源◎田中裕介
沖繩における儒教の実践◎仁王浩司
朝鮮王朝の碑の文化と社会◎篠原啓方
執筆者一覧

書名	部数
近世大名墓の考古学 東アジア文化圏における思想と祭祀 松原典明 [編]	部
本体 12,000円(+税) B5判・上製カバー装・336頁 2020年6月刊行 ISBN978-4-585-22276-7 C3021	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

儒教儀礼と 近世日本社会

松川雅信 [著]

閻齋学派の『家礼』実践

近世日本にとって儒教儀礼とは
何であったのか――

科挙のような儒教的制度を持たない一方、
仏教の葬儀や祭祀が行われていた近世日本社会。
そうした社会を生きる儒者たちは、

殊に東アジアで絶大な影響力を誇った
『家礼』記載の喪祭礼を、どのように捉え、

そしていかにして実践しようとしたのか。
長期間にわたってこの問題と真摯に向き合い続けた、

山崎闇齋を学祖とする閻齋学派に着目、
思想と社会とが様々に交錯する

現場に立ち入ること、
これまで見落とされてきた

近世日本儒教の新しい一面を照らし出す。

〔著者プロフィール〕

松川雅信 (まつかわ まさのぶ)

日本学術振興会特別研究員。専門は日本思想史、日本近世史。
主要論文に、「近世儒者の神代巻批判と『神道』上古」―鈴木貞斎に即して―(山下久夫 斎藤英喜編『日本書紀1300年史を問う』思文閣出版、二〇二〇年)、「近世日本の儒教儀礼と儒者」―東アジア思想史のための試論的考察―(桂島宣弘ほか編『東アジア 遭遇する知と日本』トランスナショナルな思想史の試み『文理閣』二〇一九年)、「稲葉黙斎の喪礼実践論―徂徠学批判・仏教認識に注目して―」(第一回日本経済思想史学会賞受賞)、『日本思想史学』五
十号(二〇一八年)などがある。

〔目次〕

序章

第一部 浅見綱斎とその周辺

第一章 「此方ナリ」の『家礼』実践
―基軸としての「本」と「文」―

第二章 「物ナリ」の思考―「格物」と喪礼実践

第三章 「心ノ理ナリ」による来格―鬼神論と祭礼実践

第二部 閻齋学派の地域展開と『家礼』実践

―尾張と上総を中心に―

第四章 尾張藩の学問所と『家礼』

―蟹養斎による喪祭礼実践の教導

第五章 寺請・寺檀体制下の『家礼』実践

―中村習斎と尾張崎門派

第六章 「反徂徠」と『家礼』実践―稲葉黙斎と上総道学

終章

あとがき
索引

本体 10,000円(+税)
A5 判上製カバー装・440頁
ISBN 978-4-585-21056-6 C3010
2020年7月刊行

書名	部数
儒教儀礼と近世日本社会 閻齋学派の『家礼』実践 松川雅信 [著]	部
本体 10,000円(+税) A5判上製カバー装・440頁 ISBN978-4-585-21056-6 C3010 2020年7月刊行	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

編

渡辺浩一

(わたなべ・こういち)

マシュー・デーヴィス

(Matthew Davies)

人間文化研究機構国文学研究資料館・総合研究大学院大学文化科学研究科教授。専門は日本近世史。著書に『江戸水没 寛政改革の水害対策』(平凡社、2019年)などがある。

ロンドン大学バーベック校教授。専門は近世ロンドン史。著書に『Medieval Merchants and Money』(共編著 London, Institute of Historical Research, 2016) などがある。

近世都市の常態と非常態

人為的自然環境と災害

自然と人間の相互関係を連環のなかに捉えかえす――

災害という「非常態」の解明には、前提として当該期の人間社会の「常態」が如何なる状況にあったのかを把握しておくことが必要である。

人間社会に不可欠である「水」に着目し、

近世都市において、水がどのようなシステム・環境の元に制御され、

また、災害によりどのような変化・対応を強いられたのかを、

学融合・比較という観点から解明。

人為的自然としての人間社会の動態のなかに災害を位置づけ、

環境史研究の新たな方法論を模索する。

●もくじ

凡例 序章 近世都市の常態と非常態：渡辺浩一

第一部 後背地と人為的自然環境

江戸の水害と利根川・多摩川水系：渡辺浩一
自然改造の結果としての都市空間・江戸：石神裕之
嵐・洪水とロンドンの発展

第二部 インフラの機能と維持
――三〇〇―一五〇〇年：マシュー・デーヴィス(金崎邦彦訳・石津美奈校閲)

遺跡からみた都市江戸の上下水道の管理：石神裕之
江戸城堀の浸淫について

――一七六五年(明和二)の岡山藩による堀浚を中心とした岩淵令治
堀川の浸淫と土砂堆積、そして洪水――江戸、本所・深川の地域的特質：高橋元貴

ロンドンの川に橋を架ける――ロンドン橋の建設・維持とテムズ川の管理
：ヴァネッサ・ハーディング(小風尚樹訳・木村晶子校閲)

第三部 水害と対応
――一七世紀ロンドンにおける大寒波の影響と市民の対応：菅原末宇

第三部 水害と対応

――一八五六年(安政三)東日本台風経路の復元：平野淳平・財城真寿美
――一八五六年(安政三)東日本台風の被害状況と江戸の対応：渡辺浩一

氾濫を防げ――一八世紀後半のプラハ(ボヘミア)における行政組織の洪水管理政策
：オンドジエイ・フデチュク(長谷川祐平訳・春山雄紀校閲)

あとがき／執筆者・翻訳者・校閲者一覧／英文目次・序章英訳／奥付

本体七、〇〇〇円(+税)

A5上製カバー装・二四〇頁

二〇二〇年三月刊行

ISBN978-4-585-22267-5 C3020

書名	部数
近世都市の常態と非常態 人為的自然環境と災害	
渡辺浩一／マシュー・デーヴィス [編]	
本体7,000円(+税)	
A5判上製カバー装・240頁	
ISBN 978-4-585-22267-5 C3020	
2020年3月刊行	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

江戸日本橋商人の記録

〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書

澤登寛聡・筑後則 [編]

五街道の起点・日本橋には、江戸時代初期から多くの伊勢商人が進出した。

今に続く鯉節販売の老舗〈にんべん〉を興した

高津家もそのうちの一つであった。

享保改革期から田沼時代・寛政改革・文化期まで活躍し、

三百二十年の歴史の基礎を築いた

高津家三代・四代当主の活動を克明に記した日記・文書

そして、その思想・人生哲学を伝える史料を

初めて翻刻、解題・通釈を付して公刊。

資金繰り、相場の変動、雇用問題、家族の死、

度重なる災害など、目まぐるしく変わる状況に

彼らはいかに対応してきたのか――



江戸商人の生き様を
活写する貴重史料、
初の公刊。

【編者プロフィール】……

澤登寛聡（さわと・ひろさと）

元法政大学文学部教授。博士（文学）。専門は歴史学・江戸時代史（日本近世史）研究。著書に『江戸時代自治文化史論』法政大学出版局、二〇一〇年、編著書に『農家調査記』岩田書院、二〇〇一年、『富士山と日本人の心性』岩田書院、二〇〇七年、『北東アジアのなかのアイヌ世界』岩田書院、二〇〇八年などがある。

筑後則（ちくご・のり）千葉科学大学非常勤講師。専門は日本近代史・江戸商人研究。著書に『福徳稲荷縁起考』福徳神社、二〇一四年、共著に『東京都の地名』（日本歴史地名大系13、平凡社、二〇〇二年）、『大江戸知らないことばかり』NHK出版、二〇一八年などがある。



本体 **11,000**円(+税)
四六倍判上製
カラー口絵 16頁+336頁
ISBN 978-4-585-22269-9 C3021
2020年3月刊行

【もくじ】……

口絵 …… 澤登寛聡

【史料解題】…… 澤登寛聡・筑後則
高津幸通日記／追遠訓／吉右衛門殿宛高津
伊兵衛幸通書状／遺囑／福壽録／無言語／
高津伊七日記／高津家姓系図

【翻刻】……
高津幸通日記／追遠訓／吉右衛門殿宛高津
伊兵衛幸通書状／遺囑／福壽録／無言語／
高津伊七日記／高津家姓系図

【解説】…… 筑後則
鯉節商伊勢屋伊兵衛三代の記／高津伊兵衛
の歴史／高津幸通日記 日記序 通釈／福
壽録 通釈／無言語 通釈

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

あとがき …… 澤登寛聡

<p>書名</p> <p>江戸日本橋商人の記録 〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書</p> <p>澤登寛聡・筑後則 [編]</p>	<p>部数</p> <p>本体 11,000円(+税)</p> <p>四六倍判上製・カラー口絵16頁+336頁 ISBN 978-4-585-22269-9 C3021 2020年3月刊行</p>
<p>ご送付先ご住所（通信欄）</p>	

島村幸一

編

琉球船漂着者の「聞書」世界

『大島筆記』翻刻と研究

アジアのなかの琉球を知るための貴重資料

宝暦十二年（一七六二）旧暦四月、薩摩へ向かう一艘の琉球船が暴風雨に遭遇し、土佐へ漂着した。

土佐藩の儒者・戸部良熙が、乗船していた琉球人潮平親雲上から聞き書きをとり、琉球側からの提出資料とともにまとめたもの、それが『大島筆記』である。優れた教養を有した二人の邂逅により纏められた本書は、琉球王府が編纂した資料では窺えない、当時の琉球人が語った貴重な情報に満ち溢れている。

漂着の次第はもとより、琉球の地誌全般、当地における文芸や言語、風俗、さらには、中国や日本など琉球を取りまく地域との交流・交叉の諸相を伝え、江戸期の琉球認識などを知るためにも貴重な資料である。

諸本のうち最も内容の備わった最善本を初めて全編翻刻、校異を付し、さらに琉球船の土佐への漂着に関する貴重資料『琉球船漂着記』『韓川筆話（抄）』『琉球人話』を収録。

研究篇として、文献学・文学・文化史・外交史・空手史・言語学等に關する充実の論考六篇を収載した決定版。



【目次】
はじめに◆島村幸一

第1部 翻刻編

大島筆記（国立国会図書館所蔵）
●附録『大島筆記』に関連する資料

琉球船漂着記（高知県立図書館所蔵）
韓川筆話（抄）（国立国会図書館所蔵）
琉球人話（安芸市歴史民俗博物館所蔵）

第2部 研究編

宝暦十二年琉球国船漂着記録

『大島筆記』諸本について◆横山學
土佐国漂着の琉球船「聞書」資料の世界

琉球人の唐旅見聞談について◆真栄平房昭
近世における琉球人の日本漂着◆屋良健一郎

『大島筆記』をめぐる
唐手の「伝来」に関する一考察◆嘉手苅徹

『大島筆記』に記された琉球語◆橋尾直和

あとがき◆島村幸一
執筆者一覧

【編者プロフィール】

島村幸一（しまむら・こういち）

立正大学文学部教授。専門は琉球文学、琉球文化史。著書に『おもろさうし』と琉球文学（笠間書院、二〇一〇年）、『琉球文学の歴史叙述』（勉誠出版、二〇一五年）、『おもろさうし研究』（角川文化振興財団、二〇一七年）などがある。

本体 **10,000**円(+税)
A5判上製・472頁
ISBN 978-4-585-29197-8 C3095
2020年3月刊行

書名	部数
<p>琉球船漂着者の「聞書」世界 『大島筆記』翻刻と研究</p> <p>島村幸一 [編]</p>	<p>本体 10,000円(+税)</p> <p>A5判上製・472頁 ISBN 978-4-585-29197-8 C3095 2020年3月刊行</p>
ご送付先ご住所（通信欄）	

幕末明治の 社会変容と詩歌

したたかな「うたの力」

〔目次〕

序章

第一部 幕末明治の政治と和歌

孝明天皇と古今伝受——附・幕末古今伝受関係年表

近世後期の和学における和歌と教化

幕末の仙台における藩政と和歌

——保田光則編『訓誡歌集』をめぐって

国体と和歌——水戸藩による『明倫歌集』の編纂について

教導職の万葉選歌——国民教化と和歌

第二部 〈草莽〉と和歌

連鎖する志——安政の大獄における水戸（義民）の詠歌

尊王攘夷歌の史的位位置——『新葉集』受容と幕末の類題集

志士の歌を読む

幕末の志士はなぜ和歌を詠んだのか——漢詩文化の中の和歌

振気から教化へ——勤王志士詩歌集のゆくえ

第三部 新体詩と「歌」

『新体詩抄』における「歌」

『新体詩歌』の出版を支えた人々

近世韻文としての新体詩

——『新体詩抄』と『新体詩歌』をめぐって

七五調の幕末明治

——今様評価の変遷と加藤松老編『古今今様集』

与謝野晶子の星の歌——『みだれ髪』と土井晩翠

終章

あとがき／初出一覧／索引

青山英正 [著]

（あおやま・ひでまさ）明星大学准教授。専門は19世紀の日本文学（特に詩歌）および文化。著書に『幕末明治 移行期の思想と文化』共編著、勉誠出版、二〇一六年、論文に『古典知としての近世観相学——この不思議なる身体の解剖学——前田雅之編』『もう一つの古典知「アジア遊学」155、勉誠出版、二〇一二年）、『与謝野晶子の星の歌——『みだれ髪』と土井晩翠』（鈴木健一編『天空の文学史 太陽・月・星』三弥井書店、二〇一四年）などがある。

本体 10,000円(+税)

A5 判上製カバー装・496頁
ISBN 978-4-585-29196-1 C3095
2020年2月刊行

書名	幕末明治の社会変容と詩歌	部数	部
著者	青山英正 [著]	本体 10,000円(+税)	
		A5判上製カバー装・496頁	
		2020年2月刊行	
		ISBN978-4-585-29196-1 C3095	
ご送付先ご住所（通信欄）			

お伽草子 超人入門

伊藤慎吾 [編]

純愛あり、ラブコメあり、異世界・異能バトルあり、擬人化あり……

様々な物語のアイディアの宝庫である「お伽草子」。

その代表的なテーマである妖怪、

異類婚姻、恋愛、歌人伝説、

高僧伝説などの物語を紹介。

読みやすい現代語訳、

多数の図版とともに読み解く。

お伽草子を題材にしたマンガ・小説などを

広く紹介する「お伽草子ガイド」、

関連物語を調べるための手引き

「モチーフ索引」、

「妖怪小辞典」などを付した

楽しく読める、使える

「お伽草子」入門書!



近藤よしののマンガも掲載!

カラー口絵
はじめに

妖怪物語『是害坊絵』
アンチヒーローとしての天狗◎伊藤慎吾

異類婚姻物語『藤袋の草子』

人間は異類と結婚できるのか

——西欧の昔話と比べてみる◎木村慧子

マンガ『ねずみの草子』◎近藤ようこ

解説「ねずみの草子」のころ◎近藤ようこ

恋愛物語『花子ものぐるひ』

会話は別れの始め、別れは再会の始まり◎式町真紀子

歌人伝説『花鳥風月』

巫女が占う『花鳥風月』の不思議な世界◎菅原正子

高僧伝『弘法大師御本地』

異世界転生して最強の

呪文詠唱者(スペル・キャスター)になった件◎伊藤慎吾

魅惑のお伽草子——不思議の物語世界◎徳田和夫

【付録篇】

お伽草子の基礎知識◎お伽草子ガイド

年表風作品ガイド◎主要モチーフ索引

付テーマ別一文紹介◎妖怪小辞典

口絵解説

あとがき

カバーイラスト◎近藤ようこ

本体2,800円(+税)

四六判並製カバー装

352頁+カラー口絵8頁

2020年7月刊行

ISBN978-4-585-29188-6 C0095

書名	部数
お伽草子超人入門	部
伊藤慎吾 [編]	部
本体2,800円(+税)	
四六判並製カバー装・352頁+カラー口絵8頁	
2020年7月刊行	
ISBN978-4-585-29188-6 C0095	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

吉田松陰と学人たち

徳田武 [著]

森田節齋、佐久間象山、久坂玄瑞、
梁川星巖、月性……

志士と呼ばれる人たちの内で、
最も多くの読書量・執筆量を誇る吉田松陰。
その松陰のありよう、思想に大きな影響を与えた、
多くの学人たち。

幕末の激動する国際状況の中で、
学問を追求し、思索し、
行動した学人たちとの多彩な交流から、
松陰という人物の軌跡と精神の展開とを俯瞰する。
日記をはじめ、諸資料を丹念に紐解き、
松陰の一生に於いて大きな意義を持つ
学人たちとの関係を追尋した快著。

〔著者プロフィール〕

徳田武(とくだ たけし)

明治大学名誉教授。

早稲田大学第一文学部卒一九七四年、同大学院博士課程修了。文学博士。

一九七九年に窪田空穂賞一九八〇年に日本古典文学会賞一九八七年『日本近世小説と中国

小説』で日本学士院賞を受賞。

主な編著書に、『日本古典文学研究史大事典(勉誠出版、一九九七)、『朝彦親王伝(勉誠出

版、二〇二二)、『会津藩儒将 秋月章軒伝(勉誠出版、二〇二二)、『小原鉄心と大垣維新史(勉

誠出版、二〇二二)、『清河八郎伝 漢詩にみる幕末維新史(勉誠出版、二〇二六)、『浮世絵師の

絵で読む 八犬伝(上・下)(勉誠出版、二〇二七)などがある。

〔目次〕

序

第一章

第二章

第三章

第四章

第五章

第六章

第七章

第八章

第九章

第十章

第十一章

第十二章

第十三章

第十四章

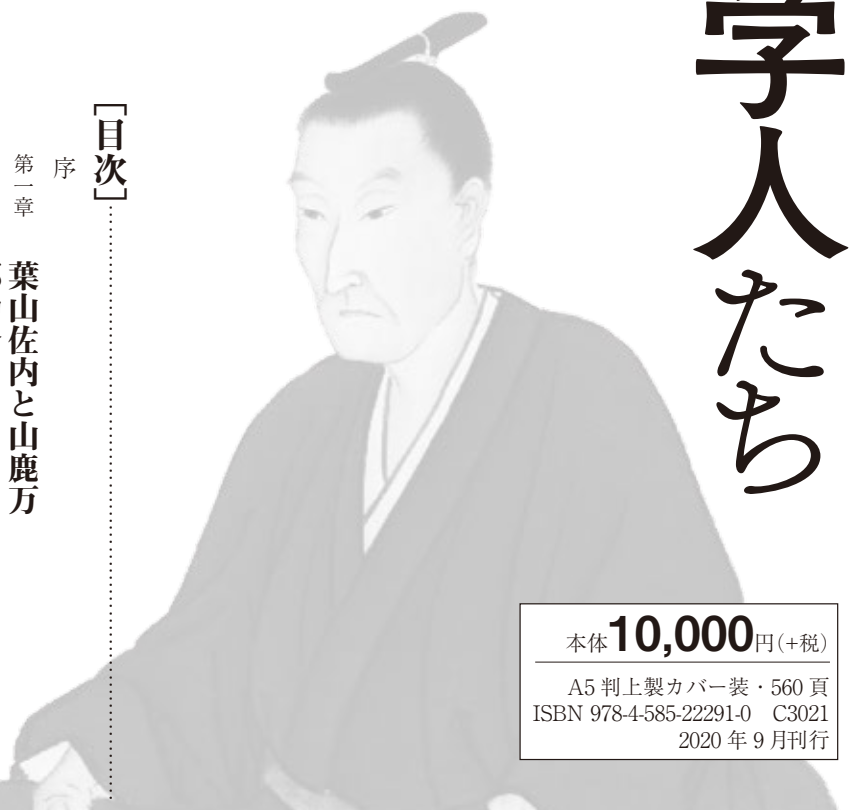
第十五章

第十六章

吉田松陰年譜

後記

人名索引



本体 **10,000**円(+税)
A5 判上製カバー装・560頁
ISBN 978-4-585-22291-0 C3021
2020年9月刊行

書名	部数
吉田松陰と学人たち 徳田武 [著]	部
本体10,000円(+税) A5判上製カバー装・560頁 ISBN978-4-585-22291-0 C3021 2020年9月刊行	
ご送付先ご住所(通信欄)	

鈴木健一 [編]

鈴木健一(すずきけんいち) 一九六〇年生まれ。学習院大学文学部教授。専門は江戸時代の文学。著書に『古典法入門 歴史と技法』(岩波書店、二〇一四年)、『天皇と和歌 国見と儀礼の一五〇〇年』(講談社、二〇一七年)、『不忍池ものがたり 江戸から東京へ』(岩波書店、二〇一八年)など、編著に『浸透する教養 江戸の出版文化という回路』(勉誠出版、二〇一三年)、『形成される教養 十七世紀日本の〈知〉』(勉誠出版、二〇一五年)がある。

明治の教養

変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉

●まぐぐ

はじめに：鈴木健一

序論 変容する教養——近代における〈和〉〈漢〉〈洋〉：鈴木健一

I 〈和〉が形成する基盤

尊王攘夷論と大和魂——本居宣長から吉田松陰へ：田中康二

実録から講談・歴史的読み物へ——「中山大納言物」を例に：菊池庸介

紀行「易心後語」に見る幸田露伴の教養の根柢

——古人に向きあうということ：出口智之

手習塾から小学校へ：橋本昭彦

II 〈漢〉はどこへ行くのか？

書跡における近代的教養——清朝書学との交差をめぐって：鍋島稲子

「文粹もの」における朱子学と陽明学の折衷：山本嘉孝

ポッケと修養——明治期『菜根譚』出版の後景：磯部敦

徳富蘇峰の思想と文体——『国民之友』創刊前後：木村洋

III 〈洋〉がもたらすもの

日本語と西洋との邂逅：山東功

新たな「智」の形成——福澤諭吉と慶應義塾：西澤直子

岩倉使節団における文化比較と翻訳

——モンテスキュー著・何礼之訳『万法精理』：多田蔵人

討論の条件——論争誌としての『明六雑誌』：菅原光

内国勸業博覧会と和・漢・洋——本草学と博覧会：國雄行

円朝と「西洋」——翻案作概観と「英国孝子伝」「黄蔷薇」「蝦夷土産」の方法について：今岡謙太郎

後記：鈴木健一

社会の基盤をなす「知」は、いかに変容していったか。

幕末から明治初期、欧米列強のインパクトは、それまでの日本の文化体系に大きな影響を与えることとなった。古代以来続いてきた和(日本)・漢(中国)をベースとした教養のあり方もまた、時代の趨勢にあわせ変容していく…

和・漢・洋が並び立ち、混じり合いながら形成された、近代以降、現代まで続く教養体系の淵源を探る。

好評既刊

浸透する教養

——江戸の出版文化という回路

本体七、〇〇〇円(+税)
二〇一三年十一月刊行

形成される教養

——十七世紀日本の〈知〉

本体七、〇〇〇円(+税)
二〇一五年十一月刊行

●近世文学・幕末明治史・日本思想史

本体七五〇〇円(+税)・二〇一九年十二月刊行

A5判上製カバー装・三六八頁

ISBN978-4-585-29193-0 C3091

書名	部数
明治の教養 変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉	部
鈴木健一 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本体7,500円(+税)

A5判上製カバー装・368頁
2019年11月刊行

ISBN978-4-585-29193-0 C3091

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集

永井晋

〔編〕

従来の茶文化史の
ミッシングリンクを埋める貴重史料
日本の中世社会において、

茶はさまざまな場面で利用されてきた。

特に鎌倉の武家文化・宗教文化は、飲用のみならず、
儀礼や贈答などさまざまな場において、
茶との密接な関係を有してきたが、

従来の研究では、禅宗とのかかわりが強調されることが多く、
充分に考察がなされているとはいえない。

これら中世東国の茶の歴史をいまに伝える史料が

『金沢文庫古文書』のなかに多数存在する。

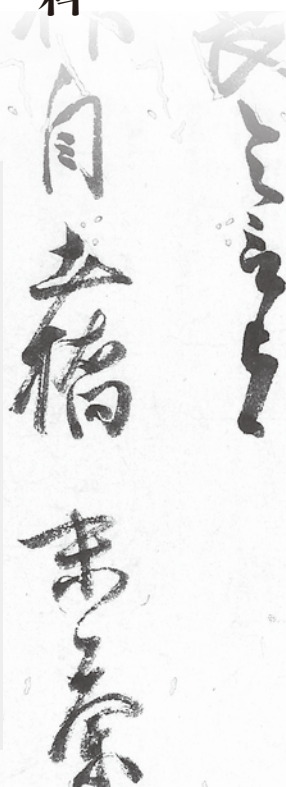
同史料群より貴重史料三〇八通の翻刻と解説を行い、
編年で配列、これまで見落とされてきた

中世日本の茶をめぐる文化的広がりを明らかにする。

【編者プロフィール】

永井 晋（ながい・すすむ）

神奈川県立金沢文庫主任学芸員、神奈川県立歴史博物館企画普及課長を経て、現
在関東学院大学客員教授。専門は日本史。主要著書に、『金沢貞顕』（吉川弘文館、
二〇〇三年）、『金沢北条氏の研究』（八木書店、二〇〇六年）、『金沢北条氏編年資
料集』（共著、八木書店、二〇一三年）、『源頼政と木曾義仲——勝者になれなかった
源氏』（中央公論新社、二〇一五年）、『平氏が語る源平争乱』（吉川弘文館、二〇一
九年）、『鎌倉僧歴史典』（八木書店、二〇二〇年）などがある。



【目次】

カラー口絵
はじめに

翻 刻

解説『金沢文庫古文書』の中世喫茶史料
金沢氏・称名寺喫茶関係資料参考年表

あとがき

索 引

同時刊行!



永井 晋〔編〕 『アジア遊学252号』

中世日本の茶と文化
生産・流通・消費をとおして

本体一、八〇〇円（+税）

A5判並製カバー装・二四〇頁
二〇二〇年九月刊行
ISBN978-4-585-22718-2 C1321

本体一〇、〇〇〇円（+税）
A5判上製カバー装
口絵四頁+本文三七六頁
二〇二〇年九月刊行
ISBN978-4-585-22288-0 C3021

湛睿書状（国宝金沢文庫古文書より）

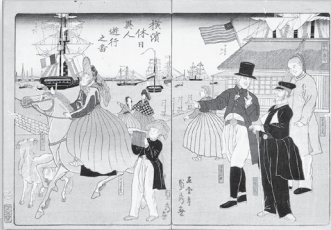
書 名	部 数
金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集 永井 晋〔編〕	本体 10,000 円（+税） A5判上製カバー装・口絵4頁+本文約376頁 2020年9月刊行 ISBN978-4-585-22288-0 C3021
ご送付先ご住所（通信欄）	



生麦事件の現場写真



『日本図絵』より寺子屋



横浜休日
異人遊行之図

開国・明治維新にゆれる幕末日本を
外国人の目から活写した一級資料、初公開！
一八六三年四月、日本・スイス間の通商条約締結の
使節団の一員として来日したカスパー・ブレンワルド。
彼の日記のうち、一八六二年十二月月から
一八六七年十二月までのものを全編翻訳し初公開。
使節団としてともに行動したエーメ・アンベールの
『日本図絵』ほか、新聞挿絵、浮世絵、古地図など、
横浜開港資料館所蔵の貴重図版資料とともに、
幕末日本において政治・経済に奔走した外国人の
足取りを紹介する。

スイス使節団が見た 幕末の日本

ブレンワルド日記
1862
1867

横浜市ふるさと歴史財団
ブレンワルド日記研究会 [編]

図版点数
111点!!



ブレンワルド日記

カスパー・ブレンワルド

本体 **9,800** 円(+税)

A5判・上製カバー装・口絵16頁+本文554頁
ISBN978-4-585-22275-0 C3021
2020年6月発売

【編者紹介】
横浜市ふるさと歴史財団(横浜開港資料館)
一九八一年六月二日の開港記念日に開館。ベリー来航前後から関東大震災までの
横浜の歴史に関する資料を収集、年四回の企画展示を開催している。
ブレンワルド日記研究会
二〇〇九年六月に発足した横浜開港資料館の専門職と外部の研究者によって組
織される研究会。カスパー・ブレンワルドが記した日記の解説にあたって

【目次】

カラー口絵

序言

第一章 ● スイス通商使節団の日本派遣

第二章 ● 生麦事件勃発の影響

第三章 ● フランス軍将校カミュの暗殺

第四章 ● 日瑞修好通商条約締結へ

第五章 ● スイスへ帰国して

第六章 ● 日本での起業に向けて

第七章 ● スイス領事に任命されて

〈附録〉 ● エーメ・アンベール著『日本図絵』
に描かれた幕末の日本

第八章 ● シイベル・ブレンワルド社の活動

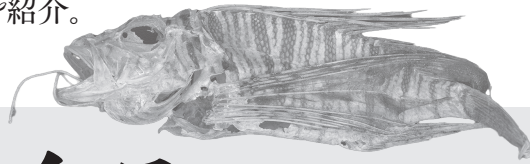
第九章 ● 慶応三(一八六七)年を迎えて

索引

書名	部数
スイス使節団が見た 幕末の日本 ブレンワルド日記1862-1867 横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会 [編]	本体 9,800 円(+税) A5判・上製カバー装 口絵16頁+本文554頁 2020年6月発売 ISBN978-4-585-22275-0 C3021
ご送付先ご住所 (通信欄)	部

書物を集め、愛でた人々、そして、海を越えて伝えられた蔵書に秘められたドラマを描き出す。

日本古典籍はその残存状況の良さ、また、美しくつ内容が豊富であることから、世界各地にコレクションとして伝存している。本特集では、欧米の著名なコレクションから、ハワイ大学、ホノルル美術館、アメリカ議会図書館、UCバークレー、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学という名だたる所蔵機関の特色ある蔵書を紹介。



●特集

蔵書はめぐる

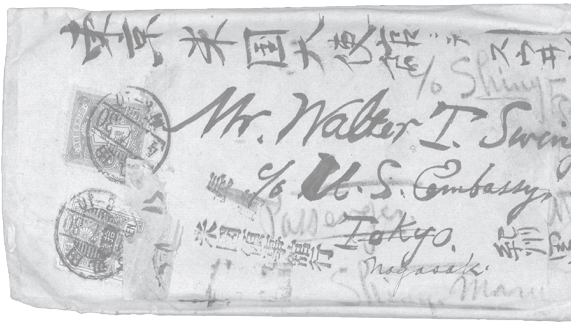
海外図書館の日本古典籍コレクション

個人蔵書のゆくえ◎横山學

「東西の十字路」楽園ハワイの中の古典籍とその来歴
 ——ハワイ大学マノア校図書館アジアコレクション部日本文庫から◎バゼル山本登紀子
 古典籍もART——ホノルル美術館収蔵和古書と作品整理について◎カワイアエア幸代
 米国議会図書館日本古典籍コレクションの来歴と「北方資料」◎伊東英一／キャメロン・ペンウェル
 太平洋を渡った日本古典籍
 ——カリフォルニア大学バークレー校C. V.スター東アジア図書館コレクション◎マルラ俊江
 蔵書を通して見る日本との出会い
 ——オックスフォード大学ボドリアン図書館の和古書コレクション◎イズミ・タイトラー
 アーネスト・サトウと武家故実資料
 ——ケンブリッジ大図書館古典籍コレクションの来歴の一端をさぐる◎小山騰

【連載】書物学ことはじめ

【新連載】書籍はどう動いたのか
 ——近代書籍流通史料の世界◎磯部敦
 書物の声を聞く 書誌学入門◎佐々木孝浩
 江戸時代の古文書の読み方◎白川部達夫
 愛書家としての鲁迅◎瀧本弘之
 西洋古書の遠近法◎雪嶋宏一
 英国愛書家の系譜◎高宮利行
 【特別寄稿】
 小説の連続性と英詩の役割◎野網摩利子



BIBLIOLOGY 書物学 18

古今東西の知の宝庫に分け入り、
 読書の楽しさを満喫する！

本体一、八〇〇円＋税
 B5判並製・二二〇頁（フルカラー）
 二〇二〇年七月刊行
 ISBN978-4-585-20718-4 C1000

書名	部数
書物学 18 蔵書はめぐる 海外図書館の日本古典籍コレクション 編集部[編]	本体1,800円(+税) B5判並製・120頁(フルカラー) 2020年7月刊行 ISBN978-4-585-20718-4 C1000
ご送付先ご住所（通信欄）	

日本建築の 歴史的評価と その保存

山岸常人 [著]

(やまさし・つねと)

京都大学名誉教授。専門は日本建築史。
工学博士（東京大学）。
主な著書に『中世寺院社会と仏堂』（塙
書房、平成2年）、『中世寺院の僧団・
法会・文書』（東京大学出版会、平成
16年）、『塔と仏堂の旅 寺院建築から
歴史を読む』朝日選書772、朝日新聞社、
平成17年）などがある。

【目次】

序 歴史的建造物の調査・研究と保存

第一部 建築遺構の歴史的評価

第二部 近世寺社建築を読む
—— 調査方法と近世建築の特質 ——

第三部 地域における近世寺社建築の特質

第四部 民家の技法と特質

第五部 工匠と建築

第六部 発掘遺構の復元的考察

第七部 文化財建造物の保存修理の理念と方法

第八部 震災と文化財

あとがき／成稿一覧／図版・表出典一覧／索引

歴史的建造物をどのように調査するのか、
調査した建造物の特質をどのように読み取るのか、
その特質を踏まえてどのように保存を行ってゆくべきなのか、
その保存のための制度の課題は何か。
長年にわたり調査・研究・保存に携わってきた知見より、
歴史的建造物を保存し将来に伝えて行くための考え方と、
その具体的な事例を提示する。

本体 一七、〇〇〇円（+税）

B5判上製カバー装・六七二頁

二〇二〇年三月刊行

ISBN978-4-585-22268-2 C3021

書名	部数
日本建築の歴史的評価とその保存 山岸常人 [著]	部
本体 17,000円（+税） B5判上製カバー装・672頁 2020年3月刊行 ISBN978-4-585-22268-2 C3021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人

編

日本の表装と修理

装い、繕い、伝える――

絵画や書、古文書など、紙や絹を用いた文化財は、表装によって、より美しく、より長くその存在を守られ続ける。

これらの歴史的遺産を修理・保存し、伝えていくことは、込められた人々の思い・願いをも共有していく営みである。

表装や修理は、どのような価値観や思想のもとに行われてきたものなのか。

文化財の修理・保存の第一線にあり、その困難な作業の中で、

技術者たちはどのような試行錯誤を重ねてきたのか。残し伝えられてきた「モノ」との真摯な対話の中から、

表装と修理にまつわる文化史を描き出し、今日の我々にとっての

文化財保護の意義と意味を照射する。

「编者プロフィール」

岩崎奈緒子（いわさき・なおこ）
京都大学総合博物館教授。専門は日本近世史。

中野慎之（なかの・のりゆき）
文化庁文化財第一課文部科学技官（絵画部門）。専門は美術史。

森道彦（もり・みちひこ）
京都国立博物館研究員（中世絵画）。専門は中近世絵画。

横内裕人（よこうち・ひろと）
京都府立大学教授。専門は日本中世史。

「おへこ」

口絵
はじめに

参考文化財の構造と名称

第一部 現代の装演・文化財修理

装演師の声を聞く

――技術者から見た装演文化財修理の進化◆岩崎奈緒子
表具師から装演師へ◆岡興造
古文書修理の歴史と理念◆湯山賢一

第二部 表装の文化史

日本中世の仏画の表装◆谷口耕生

「東山表具」の成立をめぐる小考◆板倉聖哲
江戸宗玩による表具の記録と制作◆門脇むつみ

表装が伝えるもの――後水尾院縁の掛軸を事例として◆高田智仁
近代日本における中国書画蒐集と表装◆竹浪遠
近代日本画の材料と表装◆中野慎之

第三部 修理の文化史

平安時代の仏画制作とその修理◆増記隆介

前近代における書跡・古文書修理の諸相
――現状維持の理念をめぐって◆横内裕人

護持院隆光の寺社修理――元禄期の奈良を中心に◆古川攝一
近世における障壁画の保存と継承◆森道彦
近世ヨーロッパ美術と修復

――芸術作品の受容史の視点から◆平川佳世
あとがき
執筆者一覧



持人物肖像
絹本着色江戸時代（十九世紀）
（京都府蔵（京都文化博物館管理））

本体 7,000円(+税)

A5判上製・カラー口絵8頁+424頁
ISBN 978-4-585-20073-4 C1000
2020年3月刊行

書名	部数
<p>日本の表装と修理</p> <p>岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 [編]</p>	<p>本体 7,000円(+税)</p> <p>A5判上製・カラー口絵8頁+424頁 ISBN 978-4-585-20073-4 C1000 2020年3月刊行</p>
ご送付先ご住所（通信欄）	

伊藤慎吾

著

南方熊楠と 日本文学

人文学黎明期に、熊楠は日本文学に
どのような価値を見出し、
学問に利用していったのか？

近代における諸学問の形成の時期に在野にありながら
数多くの論考を展開した南方熊楠。
その論考の多くには、文学作品が資料として使われており、
そこには今日でも通用する見解が散見される。
熊楠が研究の基礎とした近世随筆・説話集、
お伽草子や近世怪談などの資料群を精査し、
近代前期における人文学の展開の中に位置付け、
看過されてきたアイディア、研究のオリジナリティを発掘する
ことにより、これからの日本文学研究の可能性を提示する。
熊楠自筆『熊野の本地』・『横山重書簡』・『横山重寄贈本書入れ』・
南方熊楠顕彰館所蔵『絵巻物断簡』などの
貴重資料の翻刻も多数収録。

【著者プロフィール】

伊藤慎吾 (いとう・しんご)

国際日本文化研究センター客員准教授。学術博士(埼玉大学)。専門は、日本文学。
単著に『中世物語資料と近世社会』(三弥井書店、二〇一七年)、『擬人化と異類合戦の文芸史』(同、
二〇一七年)、『室町戦国期の公家社会と文事』(同、二〇一二年)など、共著に『怪人熊楠 妖怪を語る』(同、二〇一九年)、『熊楠と猫』(共和国、二〇一八年)などがある。

【目次】

序論	南方熊楠と日本文学
第一部	古代・中世文学の受容
第一章	南方熊楠の文学史的認識
第二章	横山重と南方熊楠
第三章	お伽草子資料をめぐる―― 南方熊楠書写『熊野の本地』の性格
第四章	南方熊楠『蛤の草紙』論の構想
補論	折口信夫の沓岐調査と文学史
第二部	近世文学の受容
第一章	南方熊楠の妖怪研究と近世説話資料
第二章	南方熊楠と近世期翻案系怪談
第三章	南方熊楠と『甲子夜話』
第四章	妖怪研究と説話・民俗
第五章	西牟婁郡江住村のネコマタに及ぶ―― 南方熊楠の妖怪名彙(鬼)について
付論	文芸創作について

第三部 資料編

- 1 高須本『熊野縁起』
- 2 横山重書簡・翻字資料
- 3 横山重寄贈本書入れ
- 4 南方熊楠顕彰館所蔵『絵巻物断簡』影印と翻刻



本体 **7,000**円(+税)
A5判上製カバー装・408頁
ISBN 978-4-585-22270-5 C3095
2020年3月刊行

<p>書名</p> <h2 style="text-align: center;">南方熊楠と日本文学</h2> <p style="text-align: center;">伊藤慎吾 [著]</p> <p>ご送付先ご住所 (通信欄)</p>	<p>部数</p> <p>本体 7,000円(+税)</p> <p>A5判上製カバー装・408頁 ISBN 978-4-585-22270-5 C3095 2020年3月刊行</p> <p>部</p>
---	---

近世後期テニヲハ論の

展開と活用研究

本体 八、〇〇〇円(+税)

A5判上製カバー装・三四四頁
二〇二〇年一月刊行
ISBN978-4-585-28047-7 C3081

遠藤佳那子〔著〕

日本語文法研究史を辿るための必読書！

漢文訓読や歌論・連歌論等、

日本語に関わる人々の関心事であり続けた「テニヲハ」。

近世後期に入ると、国学者たちはテニヲハの研究を深め、
陸続と語学書や活用表が編まれた。

現代とは異なる範囲と尺度を持つその活用表は、
語学的な営為の結晶であるとともに

歌学・古典学の精髓でもあった。

近世の伝統的なテニヲハ研究を、

動詞の活用研究との関係から辿り、

近代的文法研究にどのような影響を与えたのかを検討。

国学研究の地平に肉薄し、その射程を読み解く。

附録として未発表資料、

黒川真頼『詞の栞』影印・翻刻を掲載。

〔平成三十年度 新村出記念財団重山文庫 刊行助成出版〕

*「テニヲハ」とは…

助詞・助動詞のことを指す。「テニヲハ」という用語はヲコト
点の四隅にある点が起源とされ、はじめは漢文訓読や和文の
漢字表記を試みる過程において問題とされた。その一方で、
歌論や連歌論の世界でも和歌や連歌を創作する際に、歌の出
来を左右する要として重要視されたため、「テニヲハ」は最重
要項目の位置を占めた。

〔目次〕

口絵 黒川真頼 草稿『詞の栞』影印
巻頭言◎服部隆
はじめに／序章

第一部 完了「リ」の学説史

- 第一章 完了「リ」考——鈴木服まで
- 第二章 完了「リ」考——本居春庭以降
- 第三章 「自他」再考

第二部 命令形の学説史

- 第四章 「命令形」考
- 第五章 続「命令形」考——明治前期における
- 第六章 富士谷成章「属」考——意味分類の試み

第三部 八衢の系譜

- 第七章 黒川真頼の活用研究と草稿「語学雑図」
- 第八章 黒川真頼における『詞八衢』の受容と展開

終章

〔附録一〕東京大学国語研究室蔵 黒川文庫目録（語学
之部）小型本／黒川文庫小型本調査報告

〔附録二〕黒川真頼草稿『詞の栞』影印・翻刻（一部）

〔附録三〕黒川真頼『詞乃栞打聴』翻刻

参考文献・引用文献一覧
初出一覧／おわりに／索引

〔著者紹介〕

遠藤佳那子（えんどう・かなこ）一九八六年生。上智大学大学院
文学研究科国文学専攻博士後期課程満期退学。博士（文学）。現在
都留文科大学・フェリス学院大学・実践女子大学非常勤講師。専
門は日本語学、日本語学史。主な論文に「自他」再考——近世テニ
ヲハ論における（『上智大学国文学論集』50、二〇一七年）、「明治
前期の活用表における「命令形」（『日本近代語研究』6、二〇一七
年）、「黒川真頼における「詞八衢」の受容と展開」（『国語と国文学』
94、二〇一七年）などがある。

書名

近世後期テニヲハ論の展開と活用研究

遠藤佳那子〔著〕

ご送付先ご住所（通信欄）

部数

本体 8,000円(+税)

A5判上製カバー装・344頁
2020年1月刊行
ISBN978-4-585-28047-7 C3081

部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

ロマノフ王朝時代の 日露交流

東洋文庫・生田美智子【監修】
牧野元紀【編】

「奇跡」の断面

最高の執筆陣と珠玉の資料による渾身の日露交流史

亀山郁夫

図版点数
200点超!

【目次】

監修のことば：生田美智子

序論・本書刊行のねらい：牧野元紀

総論：ロマノフ王朝時代の日露交流：生田美智子

第一部 ●漂流民をとおした日露交流

漂流民がもたらした日露対話——伝兵衛から光太夫まで：生田美智子

「コラム◆日露歴史さんぽ」① イルクーツク：牧野元紀

「魯西亞國漂船聞書」の挿絵について

——東洋文庫蔵と横浜市立大学図書館蔵の比較考察：牧野元紀

「コラム◆日露歴史さんぽ」② 厚岸と根室：牧野元紀

漂流民たちが見たサンクトペテルブルグ：大島幹雄

「コラム◆日露歴史さんぽ」③ サンクトペテルブルク：畔柳千明

第二部 ●近代国家としての関係樹立

北方紛争から北辺静平へ——高田屋嘉兵衛とリコルド：生田美智子

「コラム◆日露歴史さんぽ」④ 函館と淡路：牧野元紀

プチャーチンの来航とゴンチャロフ「日本渡航記」：沢田和彦

「コラム◆日露歴史さんぽ」⑤ 戸田：篠木由喜

視覚化された幕末の日露交流

——東洋文庫所蔵『プチャーチン来航図』が伝えること：岡崎礼奈

「コラム◆日露歴史さんぽ」⑥ ハバロフスクとシカチ・アリヤン：牧野元紀

ゲンナジー・ネヴェリスコイのアムール調査（遠征）と幕末の日本：宍内勇津流

「コラム◆日露歴史さんぽ」⑦ ユジノサハリンスク、コルサコフ：清水保彦

第三部 ●日露学術交流の深化

ロマノフ王朝時代の日本情報と日本学：畔柳千明

「コラム◆日露歴史さんぽ」⑧ ウラジオストク：麻田雅文

金田一京助夫妻の近世アイヌ語辞書写本

——北海道・滝川本とロシア・サンクトペテルブルク本と：谷本晃久

「特別コラム」ロシア史料調査と共同研究の二〇年：保谷徹

第四部 ●ロマノフ王朝の終焉と日露交流の現場

閑院宮載仁親王の一九一六年（答礼訪問）を通してみた

日露皇室外交の最期：エドワルド・パールイシエフ

「コラム◆日露歴史さんぽ」⑨

長崎・鹿児島・大津——ニコライ皇太子の足跡：牧野元紀

ニコライ二世皇帝とその家族の最後の日々：新井正紀

ロシア革命と古儀式派：下斗米伸夫

「特別コラム」『ノーボエ・スロポ』とロシアの運命：下斗米伸夫

モスクワ・莫斯科科？：麻田雅文

附録（ロマノフ王朝時代の日露交流史関連年表・参考文献一覽）

あとがき：平野健一郎

本体 3,800 円(+税)

四六判・上製カバー装
口絵16頁+本文504頁

ISBN978-4-585-22286-6 C1020

2020年8月刊行

書名	部数
ロマノフ王朝時代の日露交流 東洋文庫・生田美智子【監修】 牧野元紀【編】	本体3,800円(+税) 四六判・上製カバー装 口絵16頁+本文504頁 2020年8月刊行 ISBN978-4-585-22286-6 C1020
ご送付先ご住所（通信欄）	